



INTERCULTURAL YOUTH
EXCHANGE ORGANIZATION

IYEO News Avenue

～遙かなる海を越えて～

特定非営利活動法人 青少年異文化交流推進協会
Intercultural Youth Exchange Organization (NPO)

News Letter
Vol.11
Spring 2008
季刊誌

Intercultural Youth Exchange Organization (NPO) Sendai Chiba Osaka Hiroshima Fukuoka Oita Miyazaki Okinawa Los Angeles Perth Wellington

TOPICS

特集 1 My Best Friend!

アメリカの高校生が会った 1 人の交換留学生

特集 2 オーストラリアの新入学

米国大学スポーツ奨学金トライアウト奮闘記!

IYEO Junior Liaison Officer 便り

世界の国旗 Q&A 星条旗

留学偉人伝(2) 遣隋使

末永くお幸せに!

世界の「食堂車」の車窓から

カレーライスを手で食べたことがありますか?

世界何でもランキング

IYEO 総会開催

特集 1 My Best Friend!

アメリカの高校生が会った 1 人の交換留学生 Amy Shultz

1993年8月、高校3年生の始業日でした。その夏、私の人生に様々な変化がありました。祖母のロイスが、心不全で亡くなった心の傷も未だ癒えていませんでした。私は Suzie という名前の子犬を飼い始めました。両親と私は、大学進学計画を立てていました。学校に車で通学することをようやく許され、それは私にとってはすごい事でした。その日は、毎年と同じ新学期の始まりの日でした。いつものように7時55分にホームルームが始まり、いつものように学校からの連絡事項を聞き、いつものように必要書類へ記入をしました。そしていつものように私が小学校4年生でインディアナに引っ越してきたからの多くの友人達の顔がそこにはありました。

しかし、これまで会ったことのない新顔が一人いました。私の横に座っていたのは、あごまでの長さの輝く黒髪をした、丸顔で、目じりの上がった小柄な少女でした。彼女がアジア人であることはわかりましたが、アジアのどこから来たのかはわかりませんでした。また、彼女がアジア人なのか、アジア系アメリカ人なのかはわかりませんでした。

その少女は、自分の前にきちんと本を積んで、一人で静かに座っていました。一番上に置かれたとてもかわいい

小さな本を除いては、彼女の本と書類は私のものとほぼ同じようでした。その小さな本がどんなに重要なものであるのか、その時の私には想像もつきませんでした。その少女は、少し緊張しているように思えましたし、びくびくしているようでした。私は、家族や友達から離れ、新しい学校に入った時のことを思い出しました。わずか17歳であれば、自分が周りの人と同種の人だと思えなかったり、自分がそこに溶け込めると思えない気持ちは私にもよく理解できました。人は、自分の服装が格好よくないとか、髪型がおかしいとか、にきびができていたとか、悩むものです。それまでの人生経験からは、そんなことは取るに足らない無意味なことだとはわかりません。17歳にとっては、それらが頭の中のすべてなのです。彼女がどんなにびくびくし、緊張しているのか私は想像が付きましましたので、私は向きを変えて、その新入生



に話しかけました。彼女は話をすると、変わったなまりがありました。完全な文章ではなく、短い途切れ途切れのフレーズで話をし、時折あのかわいい小さな本（彼女の和英辞典）で単語を探すために時間を取っていました。彼女が言った言葉が理解できなかったり、意味をなしていなかったりしたので、私は、時々「何？」と聞き返し、そのため彼女は何度も同じことを言いました。やっと、さゆり（アメリカ人が発音するのはむづかしいので、私がゆっくり言わなければなりませんでしたが）が日本から来ていて、ここにはたった一人できていることがわかり、私は多いに同情しました。どうにかこうにか他人と会話ができる程度で、異なった文化の中に家族と離れて暮らすことは、とても怖いことに違いありません。人によっては、理解できなければただ笑って頷くだけで、立ち去ってしまうでしょう。彼女の立場になって考えてみると、それがどんなに恐ろしいことなのかを想像してみました。私は、彼女が人々にどのように接して欲しいのだろうかと自問しました。私なら、理解しようと努めている間は少し待つてほしいと思いました。彼らが正直でないかどうか私には知る術がないので、正直であって欲しいと思いました。私は、彼女には友だちが必要だと感じましたが、彼女が私の生涯の親友になろうとはそのときは夢にも思っていませんでした。

一年にわたり、私はさゆりの文化について大いに学びました。そして今も学んでいます。私たちは、和食の煮物を一緒に料理しました。ある日は、彼女はイカ煮を作ってくれました。ものすごく気持ち悪いと思いました。私は彼女の気持ちを傷つけたくなかったので食べました。レストランに行った時には、私がメニューにあるものを説明しましたが、彼女はたいてい私が注文するものと同じものを注文すると言いました。彼女は、私に缶から一つずつ豆を取り出すようにさせ、箸の使い方を教えてくれました。彼女はいつも私にいくつかの新しい日本の表現を教えてくれました。彼女も私にとっては、同様に辛抱強い教師でした。私たちは、音楽を聴いたり、ピアノを弾いたり、ショッピングや映画を観に行ったりするのが好きでした。私は、さゆりを見守ってくれ、彼女を迷わす人がいないか（たとえば、ある時クラスの数人の男子学生が、さゆりに中指をたてることは、一番の意味だと教えたが、それはそうではなかったことがありました）を、確認してくれる誰かが必要だと感じていました。

さゆりが、すべてが異なり、快適ではないだろう新天地に一人で来た勇気をすばらしいと思います。彼女には、境遇を乗り越えるために頼ることのできる誰かと知り合いになれるかどうか、分らなかったはずですが。私ならば、そんなこと怖くてできなかったでしょう。私はあの年、私たちが出会えて、とてもうれしく思います。私

が彼女に対するのと同様に、彼女は私を助けてくれました。私も内気で、クラスの中に溶け込めないのではないかと心配だったのです。さゆりは外向的で、私を私の殻から引き出してくれました。彼女はとてもすてきなユーモアのセンスがあります。時々彼女のちょっとしたフレーズの「私、どんな感じ？」を思いだすと、遠くに離れていても私は元気になります。私たちは、お互い常に正直でした。例えば、私はピアノを弾くのだから、もっと上手く歌を歌えるはずだとさゆりは言ったことがありました。

彼女が日本に帰る時に、お互いを忘れてしまうのではないかと心配しましたが、そのようなこともありませんでした。そして、これからもずっとそのようなことはないと思っています。毎日話をすることは



Amy Shultz (旧姓 Amy Matvya)さん結婚式にて

ありませんが、私たちは生涯の友だちです。時には連絡を取ったり、新しい情報を交換しあったりするのに数ヶ月かかることもあります。お互い必要になれば、私たちには一本の電話も、Eメールも、あるいは飛行機に飛び乗ることもできるのです。

海を越え、アメリカからこの記事を投稿してくれたのは、私の交換留学生時代からの親友である Amy Shultz です。私たちは 17 歳の年に出会い、1 年間を共に過ごしたあの日から 10 年以上たった今でも時には支えあい、時には意見を求め合い・・・今も昔も変わらず、親友として付き合っています。

私の帰国後、彼女は私より一足早く大学へ進学、教師になる夢を抱き、Ball State University（インディアナ州）で Special Education（特殊教育）を専攻、現在立派に先生として知的障害を持つ生徒が通うクラスで担任をしています。また、プライベートでは、今年の春に 2 人目の子どもを出産、2 児の母と教師の役を両立し頑張っています。今はあの時のように、いつも一緒にいる事はできませんし、遠く離れています。私はいつも「彼女との距離」は関係の無いことだと感じています。私も教師を目指していましたが、今は IYEO 福岡デスクで、自分に課された使命を果たすべく、常に努力したいと心がけています。将来再会した時、輝いている姿を見たいという気持ちが私にもあるように彼女にもあるはずですから！

岩下小百合

特集２ 一足お先に新学期開始

オーストラリアに高校留学中の伊藤真彩さんインタビュー

レポーター：Hirono Kami (IYEO Perth) 17 March, 2008



日本では入学式や始業式などの新学期は4月からですが、南半球にあるオーストラリアの新学期は2月です。今年2月から1年間の高校留学生としてパースに滞在中の伊藤真彩さんに現在の様子などを伺いました。

真彩さんはパースから30分ほど南東に離れたスワン川の河口に位置するフリーマントルという異国情緒漂う港町の「John Curtin College of Arts」という学校に通っています。フリーマントルは神奈川県横須賀市と姉妹都市、名古屋港と姉妹港の縁組を結んでいます。

オーストラリアに来て約1ヶ月たちましたが、留学生活はいかがですか？



「楽しいです！」

留学をしようと思ったきっかけは？



「もともと外国に興味があっているいろいろなことを経験してみたいと思っていました。」

このプログラムを選んだ理由は？



「母が行って見たら？と勧めてくれました。母の友人の息子さんがIYEO大阪デスクにお願いしてアメリカに一年留学をしたということからIYEOを知り、そこで私の参加しているパースへの一部奨学金プログラムを勧められました。」

パースの印象はいかがですか？



「都会すぎず、田舎すぎず、ちょうどいい大きさだと思います。」

オーストラリア人の印象は？



「とてもフレンドリーだと思います。バス停でバスを待っている時に知らない人が気さくに話しかけてくれたりします。」

学校生活はいかがですか？



「授業はついていくのに必死です(笑)。わからないときは隣の子に聞いたりします。10年生の英語の授業についていくのは難しいので、これを読みなさいと先生が絵本を貸してくれています。その絵本も週を追うごとに難しいものになってきています。

“プロペラというNon-English speakerをサポートしてくれるシステムがあり、その担当の先生からいろいろなア

ドバイスを受けるのですが、全体的に日本に比べて先生が生徒1人1人を気にかけてくれているような気がします。

日本とは違い、教科ごとに生徒が教室を移動していくので、科目によってクラスメートもかわります。そういう意味では友達も作りにくいと思うかもしれませんが、1人でいると誰かが声をかけてくれます。私はラッキーなことに体育でテニスの授業があり、ダブルスを一緒にした子と仲良くなって、その子達のグループに入ることができました。日本に興味を持っている子達がいちりして楽しいです。ドラマという科目では、先生の話の続きを小グループで考えてセリフを作り、3分くらいのパフォーマンスをするのですが、日本では考えられません。社会の授業でもプレゼンテーションをさせられます。」

ホームステイはいかがですか？



「やっぱり気を遣います。もともと家で全くお手伝いをしていなかったのですが、今では洗濯も自分でしていますし、お手伝いもしています。毎日のお弁当も自分でサンドイッチなどを作っています。いちごジャムが好きなので朝も昼もパンにいちごジャムをぬって食べていて、ホストファミリーにはunhealthy！と言われてしまっていますが止められません(笑)。でも学校へ持っていくスナックについては、袋菓子など物価が意外と高いので、リンゴを買って友達とかじって食べています。ヘルシーですよっ！ねっ！」

最後にこの1年の目標は？



「時々ラジオをきいているのですが、それがわかるようになりたいです。それとテレビでホストマザーと一緒にDesperate Housewivesというドラマをみているのですが、それもわかるようになりたいです。ホストマザーが人間関係を説明してくれるのですが難しいです・・・」

筆者注) このドラマはシリーズ1からの浮気や、前の夫などが出てきて、それらの人間関係がわからないと確かに難解です。

到着後1週間おきに電話をする度に状況もどんどん変化、不安そうな声から楽しそうなハキハキ声に変わってきた真彩さん。コツコツと自分の辞書なども作りながら頑張っているようです。1年後にはひとまわりたくましくなって、来てよかったと笑いながら帰ってくれることを現地スタッフ一同心から願っています。頑張れ、真彩さん！

米国大学スポーツ奨学金トライアウト奮戦記！

難波倫子

米国大学スポーツ奨学金のバスケットボール・トライアウトに参加する前の自分の心境は、すごく緊張していて、手に汗を握るくらいでした。たくさんの不安と、ほんの少しの楽しみな気持ちでアメリカに向かいました。

到着翌日、まずは朝から昼まで英語のテスト、そして夕方からバスケットの練習開始。コーチの英語が早い！バスケットの参加者は23人。そのうち女の子が2人。男の子の肘の高さに私の頭がある状態。練習が始まるまでは、「こんなでかくてゴツイ男たちとまともにしたら絶対死んでしまう。無理無理！」と思っていましたが、いざ練習が始まると、負けたくない！という気持ちの方が勝っていました。一日一本は絶対シュートを決めるという目標を立てました。

バスケの練習中や試合中などは、すごく集中しました。女だからって見くびられるのはいやだ！自分をコートの中

中で主張しなきゃ！！男の子はアピールしたいのはわかるけれど個人プレーばかり。私はパスをもらえないこともしばしば。パスがこないとき、声を出して、とにかく動きました。



初めてのゲームの対戦相手は高校生チーム。かなり上手かった。1試合目は何も出来ずミスばかり。しかもファールなんて言葉はアメリカにないのか！？

と思うほど、なんでもあり状態の試合。2試合目は3ポイントシュートを決め、アシストをし、1点差でゲームに勝ちました。みんな盛り上がり、コーチが「とてもよかった」と言ってくれました。コーチは何度もチームメートを信頼しろ！と言っていました。

朝食、昼食、夕食の時間はなぜかドキドキしました。特定の友達がいなかった私にとって、同じ国同士で固まっているみんなのところに飛びこまなければならず、ここに座ってもいいですか？から始まります。それぞれの国の話、勉強したいことについて、あらゆることを話しました。もちろんそんなに上手く話せたわけではありません。言われた言葉を理解できていないと、もういいよ、



なんでもない、と言われ、その言葉がきつかったです。スペイン語、ブラジル語は会話に入っていく隙もない。しゃべれない・・・それでもめげるわけにはいかない。トライアウトの時、チームプレーのスポーツは難しい。自分が思っている理想の動きなど出来るわけもなく、パスをもらえる保障もない。パスがもらえないときにどうするか！？自分がボールを持った時に、結果を出すしかない！もちろんボールを持っていない時も重要だけれど、回りを納得させるにはシュートを決めるのが一番手取り早い。“自分で考える”ことの大切さを改めて実感しました。

最終日。試合の休憩中、コーチからみんなの前で褒められました。バスケに取り組む精神がよい、と言われ、すごく嬉しかったです。それにしてもコーチたちの指示の的確なことに驚きました。状況を見て、素早く判断する。このコーチたちに教えてもらったことを光栄に思います。大学の関係者とスカラシップの金額についても直接交渉しました。自分としてはかなりアピールできている自信があっただけに、初め提示された内容に正直納得できない。もう少し何とかならないか！？と思い、次の日もう一度交渉、自分の思いをなんとか伝えることができました。とても必死な自分がそこにいました。

アジア人が1人ということで、初めは心細いように感じましたが、甘えられる場所がどこにもないので、みんなの中に飛び込んでいくしかない！と考えることができ、私には逆に良かったと思います。このトライアウトを通してさまざまな人と交流でき、また何よりもオファーをいただきスポーツ奨学金で留学するチャンスを得ることができほんとうに感謝。素晴らしい経験でした。自分のできたこと、できなかったことをもう一度よく考え、これからのことに繋げていこうと思います。

彼女は、見事にスポーツ奨学金を獲得し、現在ミズーリ州にある Hannibal Lagrange College に留学中！毎日ハードなスケジュールをこなしているようです。

IYEO Junior Liaison Officer OB/OG 便り

馬上 稔子



私は2002年、アメリカ・カリフォルニア州にある San Francisco State University(サンフランシスコ州立大学)に入学し、2007年の1月に同大学経済学部を卒業しました。現在は日本で新聞記者として働いています。

私がアメリカの大学への進学を決めた理由は、国際機関で途上国開発に携わる仕事に就きたいと思っていたことが大きな理由です。そこで大学では主に途上国の経済発展について勉強しました。現在は新聞記者として働いているので「渡米前の夢を叶えた!」というわけではありませんが、4年間の学生生活を終えてやはりアメリカの大学を選んで良かったと思います。それは、アメリカで見て感じて考えたことで「ジャーナリストになりたい」という自分の夢を見つけることができたからです。ジャーナリストを志望したきっかけは、あるドキュメンタリーフィルムを見て、自分も人にメッセージを伝える仕事をしたいと感じたからです。アメリカで暮らしているうちに、貧富の差や医療保険問題など日本で想像していたアメリカ像とはかけ離れた現実に違和感を持ち、「なぜ?」と考え始めました。その時期に、例えばマイケル・ムーア監督の「華氏911」など、次々と公開される社会問題をテーマにした映画などに刺激を受け、「私も自分なりのメッセージを伝える仕事をしたい」と思い始めました。

初めは市民団体や教授の講演などから知識を深めました。サンフランシスコは市民活動の活発な街で、学内やそのほかでも色々なイベントがありました。UCバークレーも近かったので、世界的に有名な研究者の話を聞く機会も多くありました。また、学校でもジャーナリズム学部の授業を履修し、実際の取材スキルなどの実地学習をすることができました。

夢を持って渡米しましたが、それにこだわり過ぎなくて良かったと思います。アメリカの大学に進むことは、多くの人にとって勇気や準備が必要なことです。目標を持ち、それを達成しようと努力することはもちろん大切ですが、渡米してからさらに自分の価値観を磨くことが留学の醍醐味なのだと思います。私がアメリカでの学生生活から得た一番大切な物は日本に住むこととは違う経験し、一生懸命周囲の環境に順応しようと努力し、また、その中でも自分のオリジナリティーを忘れずに自分の価値観を作り上げていけたことです。これから留学を考えている皆さんも留学することが目標なのではなく、その後4年間、たくさんの刺激を受けて成長することを楽しみ、頑張ってくださいね!



San Francisco State University 卒業式

米国大学奨学金プログラム・スポーツ奨学金「説明会」各地で開催!

米国大学奨学金プログラム広島説明会



広島市まちづくり市民交流プラザにて

2008年3月23日(日)13:00-16:00

ことしも、各地にて「米国大学奨学金プログラム・スポーツ奨学金」説明会が順次開催されています。

今後の説明会予定

2008年3月23日(日) 広島デスク終了 夏に開催予定!

2008年4月26日(土) 福岡デスクにて 14:00 ~ 17:00

2008年5月6日(火) 仙台デスクにて 13:00 ~ 16:00

大阪デスクにて 13:00 ~ 15:30

宮崎リーガルホテルにて 13:00 ~ 16:00

説明会の日時や場所等の詳細については、IYEO 各地デスクあてお問い合わせ下さい。

留学偉人伝(2)

遣隋使

前号の“留学の歴史”の中で、「奈良時代に留学生（るがくしょう）という言葉が生まれた」とご紹介しました。これは遣隋使・遣唐使に対しての言葉でもあるので、今号では、奈良時代の留学生（るがくしょう）、遣隋使についてより詳しくご紹介しましょう！

遣隋使の目的とは？

当時、東アジアの中心国・先進国であった隋の文化を学び、日本へ持ち帰ることが主な目的でしたが、外交という意味合いも込められており、朝鮮半島での影響力を維持する意図もあったといわれています。

遣隋使のたどったルートは？

大阪の住吉大社近くの住吉津→住吉の細江（現：細江川）

細井川駅）→大阪湾→難波津→瀬戸内海→九州→玄界灘→隋というルートを利用したようです。

* “津”とは、船着場。

第1回遣隋使派遣！

開皇20年（推古天皇8年）、隋へ派遣された使者（遣隋使）は、隋の高祖（国を治める人）に接見。高祖は、はるばる倭国（現在でいう日本）からやって来た使者に対し、所司（役人）を通じて、倭国はどのような国なのかと質問したところ、使者は「倭国王は天から生まれたとされる尊い男である」と説明したそうです。その説明を聞いた隋の高祖からしてみると、王を“天から生まれた尊い男”と、人々に崇めさせるような倭国の政治のあり方が納得できず、道理に反したものに思えたようで、使者たちに政治のあり方を改めるよう訓令したとのことでした。

第2回遣隋使派遣

第1回派遣から7年後、第2回目として、使者が隋へ派遣されました。この派遣についての詳細は、『日本書紀』に記されており、第2回目の使者として派遣されたうちの一人が小野妹子というのも有名ですね。（社会の授業

末永くお幸せに！

みなさん、こんにちは。
IYEO 広島(アメリカンドリーム) OB & OG の勝部彰浩・奈美です。

私達は、それぞれ時期を別にして IYEO 広島(アメリカンドリーム)の吉川さん&八木さんにご指導いただきアメリカ留学を経験しました。お二人とは帰国後も変わらず親交を深めさせていただいておりましたが、私達はそれが縁となって出会い、2007年12月8日に結婚いたしました。アメリカンドリームは昨年創業20周年を迎えられましたが(写真はその記念パーティーで撮影したものです)、なんと OB&OG の結婚は今回初！とのことで、機会あるごとに盛大に祝福していただき、大変有難くまた嬉しく思っております。

留学という素晴らしい世界への旅立ちに向けて、笑顔で“Good Luck!”と背中を押してくれたのも、さらに二人で育む新しい人生の種をプレゼントしてくれたのも、我々にとっては吉川さんであり、八木さんでした。20年の長きにわたり多くの若者たちの挑戦や転機をそばで支え、励まし、見守り続けているお二人の姿には本当に頭が下がる思いです。私達は、そんなお二人が築かれたアメリカンドリーム「ファミリー」の一員でいられることを大変誇りに思いますし、末永くお付き合いいただいていることにいつも感謝しております。



奈美さん 吉川 八木 勝部氏

留学は多くの出会いと学びがあり、人生が何倍も楽しくなる魅力的な体験です。これから留学を志す人たちへ、彼らをサポートする IYEO のスタッフの方々へ、そして我々の恩人であるお二人へ・・・心から大きなエールを送りたいと思います。

勝部彰浩 (University of Michigan, M.B.A.) & 奈美 (Eastern Washington University, M.S.)

で必ず出て来ますので皆さんもご存知でしょう！）この派遣では、小野妹子達が隋の高祖（この時代の隋の高祖は煬帝）へ“国書”（いわゆる外交文書）を持って派遣され、持参したその“国書”の中に、「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。・・・」という有名な（？）フレーズが盛込まれているものだったのです。

（このフレーズを判りやすく訳すると“日出ずる処の天子”とは倭国：日本のことで“日没する処の天子”とは隋の高祖のことです。）この国書を読んだ高祖：煬帝は、とても立腹し、外交担当官であった鴻臚卿（こうろけい）に、“無礼な野蛮人の書は、今後自分に見せるな”と伝えるよう命じたということです。この時、高祖：煬帝が立腹したのは、倭国が日出ずる処で、日没する処が隋という表現であったり、倭王が自らを“天子”と名乗ったことが原因であるといわれています。

しかし、これには別説があり、仏教用語で日出処＝東、日没処＝西というように、あのフレーズは単に東西の方角を現す用語であることより、献上した国書の中に仏教用語を用いたことが、中華的冊封体制からの離脱を表明する表現であったとも考えられ、これに対して高祖：煬帝が激怒したともいわれています。

煬帝が立腹したことはよく知られていますが、立腹の本当の理由は未だ謎なのです。

煬帝を立腹させてしまった小野妹子を含む使者達は、返書（国書に対するお返事）を持たされ、帰国することとなります。この時、煬帝の家臣である裴世清も一緒だったそうです。帰国した小野妹子は、返書を百済に盗まれ、無くしてしまったと言明し、倭王に煬帝から預かった返書を見せなかったとのことです。煬帝からの返書の文中、倭王を臣下扱いする表現があり、それで倭王の怒りを買う事を恐れた小野妹子が返書を破棄してしまったのではないかと推測されています。返書を無くしてしまった（？）小野妹子は、流刑という罰を受けたそうです。

（かわいそうな小野妹子。配慮したのに罰を受けるとは・・・）
このように、遣隋使は最初のうちは外交の意味が強かったようです。しかし、その外交も、外交慣れしていなかったからか、相手の感情を逆なでするような外交であったようです。（Sai）

<トリビアの泉 ～遣隋使編～>

遣隋使として知られている小野妹子は、第2回目からの使者であり、遣隋使・遣唐使たちの活動が記されていることで知られている『日本書紀』にも、第2回目からの記録が残されているのです。よって、私たちが社会の時間に学ぶ遣隋使の詳細に関しては、第2回目からの様子であり、第1回目の遣隋使派遣の様子については『隋書』の文中にそれっぽい表現がなされているぐらいで、実はあまり詳細は残っていないのです



世界の「食堂車」の車窓から

カレーライスを手で食べたことはありますか？

僕はインド人留学生のアパートに招かれて、一緒に手で食べたことが何度あります。『人差し指、中指、薬指をそろえてスプーンのようにして、すくったご飯を口元に持っていき、親指で押し出すようにして食べるんだ。絶対に左手は使わずに、右手だけで食べるんだよ』と教えられ上手くできたことを覚えています。日本とインドではカレーの食べ方が違うように、カレーライスに使うお米の種類も違います。

世界の国旗 Q&A

(1) 星条旗(The Star-Spangled Banner)

今回はおなじみの星条旗 Q&A です。

Q：アメリカの旗として知られる“星条旗”星と、赤、白のラインの数には意味があるって知っていますか？ ちなみに星の数は現在 50、赤白のラインの数は 13 です。

さて、この数が意味するものは何でしょう？

A：星の数 50＝現在の州(State)の数、ライン数 13＝独立時の州（入植地）の数です。

★☆☆星条旗プチ知識

赤は勇気、白は真実、青は正義を表しており、星の数は州の数が増える度に加えられ、デザインは今に至るまで 27 回も更新されているそうです。またアメリカ国家のタイトルも実は「The Star-Spangled Banner」なのです！



独立時の星条旗



現在の星条旗

世界で耕作されているお米は、ジャポニカ米とインディカ米に、大きく大別することができます。日本で耕作されるほとんどのお米がジャポニカ米（短粒米）ですので私達には馴染みが深いのですが、世界的にみるとインディカ米（長粒米）のほうが多く耕作されており、中国やインド、タイ、アメリカなどが生産地として有名です。インド料理店でサーブされるサフランライス、中国や台湾で食べる炒飯はインディカ米で作られているのでパラパラとしていてとても美味しいですね。

しかし、日本人のジャポニカ米に対する愛着心はとても強く、海外在留邦人向けのお米が世界各地で耕作され販売されています。僕がアメリカに住んでいた頃の有名ブランドは『国宝ローズ』という銘柄でした。日本食レストランや日本人商社マンとその家族、留学生などに向けて販売されていたようでした。またイタリアではイタニシキという美味しいお米も作られているそうです。やはり、おにぎりや寿司飯にはある程度の粘り気をもつ、ジャポニカ米が好相性のようです。おにぎりがパラパラだと食べにくくて仕方ないですね。インディカ米、ジャポニカ米、それぞれの国により嗜好は異なりますが、やはりその国の食文化に合うお米を食べるのが美味しさの秘訣でしょう。

さて、インド人留学生のアパートで泊まった翌日、朝食に何が食べたい？と尋ねられた僕は、異文化を尊重する人間として当然の返事をしました。『なんでも良いけど、インドらしいもの！』OKと言って彼が出してくれたのは、冷めた白ご飯にプレーンヨーグルトが乗っただけのものでした。彼にとっては母の味かもしれませんが・・・。

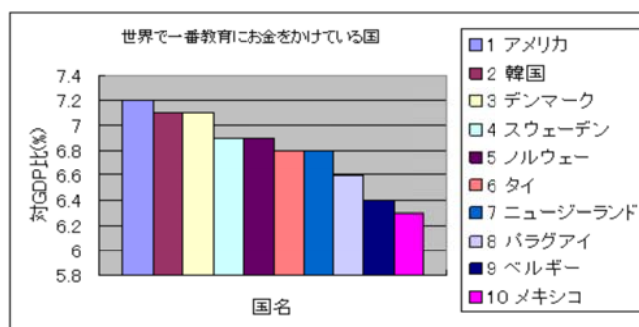
SORAMAME

世界何でもランキング

「教育にける費用」世界トップ 10

今号では、世界各国の教育にける費用を比較し、トップ 10 を御紹介！

教育支出とは、教育機関に対して国が負担する支出であり、学校教育機関に対する支出と、学校以外の教育機関に対する支出の両方を含むもの。（教育行政費・研究費も含まれる）しかし、教育支出として含まれないものには、社会教育やスポーツ、青少年活動経費が挙げられています。



IYEO 総会開催

去る2月22日（金）から24日（日）の3日間、福岡にてIYEO 総会が開催されました。全国各地デスクが一同に会し、役員人事をはじめ様々な議題に活発な議論が交わされ、盛会裏に終了しました。来年度総会は仙台にて開催の予定です。

編集後記

今年は全国的に暖かな春となり、桜の開花も早いようですね！先日のニュースによると、ワシントンDCでは恒例の桜祭りが行われ、日本から高校生のジャズバンドが参加したと伝えられていました。復活記念拡大版「IYEO News Avenue」11号はお楽しみいただけましたか？原稿をお寄せいただいた皆様、お忙しい中ご協力ありがとうございました！

IYEO News Avenue では、これからも異文化交流にかかわる様々なニュースを取り上げてゆきたいと思っています。皆さん応援＆ご協力どうぞよろしくお願いいたします。May・Soramame・Sai

季刊誌「IYEO News Avenue Vol.11」2008年4月20日号

発行 青少年異文化交流推進協会

〒730-0052 広島市中区千田町 2-1-2 TEL 082-246-9400 FAX 082-243-1849

URL : <http://www.iyeo.org> e-mail : info@iyeo.org

編集 八木ゆう子(IYEO 広島) 畑俊行(IYEO 大阪) 岩下小百合(IYEO 福岡)